



# 日本イーストウエストセンター同友会 The Japan EWC Association

ニューズレター 第7号

## EWCA タイ国際会議 CHAPTER LEADERS MEETING に出席して

会長 太田 幸 夫

1991年7月16日、バンコック市内のエシア・ホテルを会場にEWCAのCHAPTER LEADERS MEETINGが開かれた。1991年タイ国際会議（7月17日～7月20日）に先立って開催されたもので、参集した各国代表25名の顔ぶれは以下の通り。

Mr. Samir Das, India/Dr. Desai Narasimhalu, Singapore/Ms. Leela Ghising, Nepal/Dr. Kim Won-Nyon, Korea/Dr. Feng Yushu, Beijing, China/Dr. Hyacinth Gaudart, Malaysia/Mr. Yukio Ohta, Tokyo, Japan/Dr. Suguru Ishijima, Okinawa, Japan/Mr.



タイ王女による開会の辞

Santoso Donosepoetro, Indonesia/Dr. Hwang, Kwang Kuo, Taiwan/Dr. Purification Quisumbing, Philippines/Dr. Chamnong Vibulsri, Thailand/Mr. Alfonso Oiterong, Palau/Dr. Bruce Allender, Melbourne, Australia/Mr. John Gilbert, New Zealand/Dr. Reynaldo Garay, Southern California, U. S. A./Ms. Barbara Engdahl, Northern California, U. S. A./Ms. Barbara Bonner, Midwest, U. S. A./Mr. Jeffery Ung, New York, U. S. A./Ms. Rebecca Sanchez Ovitt, Hawaii, U. S. A./Other Interested Observers: Ms. Mary Jo Furgal, U. S. Embassy, Sri Lanka/Mr. Michael Anderson, U. S. Embassy, Pakistan/Ms. Janey Cole, U. S. Embassy, Bangladesh/Ms. Danna Oglesby, U. S. Embassy, Thailand/Ms. Mayuri Sukwiwat, EWC Thai Program Representative/Mr. Gordon Ring, Alumni Officer, Hawaii, U. S. A.

午前9時開会。議題を確認のあと、Dean MiyahiraによるEast-West Center近況報告とGordon Ringによる同窓会本部報告、さらに

Gary LarsenによるEast-West Center Associationからの報告等がなされた。

将来にわたるCenterとAsso.の関係をいかに整えるべきか、次回の国際会議の開催地をどこにするか、EWCAの役員改選に伴う推薦委員会の構成をどうするかなど、かねてよりの話題がその中心であった。EWCA Executive Board MemberのGary LarsenによるFuture Plan for EWCAとChalintorn BurianのInternational Skills Development Programがつづいて発表された。Gary Larsenのスピーチは、有益な人生としての生き方の中にEWCAを位置づけたもので、Gary自身の意志をうかがわせる。同時にGaryは、EWCAを“A Lifelong Learning and Cooperation Institute”と形容して、EWCAのために働く人材を求めながら、コンサルタントとしての道を志向するものであった。

Chalintorn Burianによって発表されたProposal for EWCA International Skills Training Programは、ECWAのメンバーがセンターを離れた後も長期間、継続的にセンターと連携を保って、それぞれの地域の問題に対処するため、専門性をいかしたワークショップを展開し、

その個人とセンターの両方に対して社会的利益を生み出そうとするもの。計画によれば1992年春にも早くも“International Consulting Skills”のワークショップが予定されている。

午前中のプログラムの最後に、同窓会本部のGordon Ringから、27,000名にもおよぶEWC Alumniのリストにもとづくデータベースを基盤にして、その上にコミュニケーション活動を展開する構想がうち出された。それは全体を四重構造とする考え方で、Data Baseの上にコミュニケーション、その上にStructureとしての世界30 chaptersとExecutive Boardの存在、一番上に各種プログラムが実践されるというものであった。この話を受けて太田幸夫は日本代表として、その構想が少しでもよりよく実現されることを願うショート・スピーチをそえて\$1000を同窓会本部に寄贈した。会場からは盛んな拍手による返礼が寄せられた。

昼のLuncheonでは、EWC経済研のDr. Bruce Koppelによる1992年開催予定の国際会議「発展途上国の経済進展について」(Nov. 9-14、於シンガポール、EWCは協賛)の計画が発表された。

午後は各チャプター・リーダーが5つの地域にわかれ、それぞれが分科会をもつ形式でグループ・ディスカッション(Group Discussion on Developing EWCA Strategic Plan)がもたれた。

各分科会に課せられた討議内容は下記の5項目におよんだ。

1. Reporter to summarise discussion
2. One member for Nominating Committee for EWCA election (Board of Directors for EWCA)
3. One member to attend Board of Governors Breakfast on Saturday
4. Volunteers to serve on coordinating Committee for 1992 Congress.



日本からの参加者の中、左から太田会長、飯塚幹事、山下顧問、馬場前会長、石島沖縄チャプター会長

#### 5. Reactions to future plans for EWCA

East Asia, South Asia, Southeast Asia, Pacific, United Statesの五地域に分かれた中で、East Asiaの構成メンバーは、中国本土、中国台湾、香港、日本・東京、日本・関西、日本・沖縄、韓国の7名のはずであった。ところが集まったのは東京と台湾だけで、終了後に他の3名が遅参した。東京の太田幸夫が議題1のレポーターをつとめて、以下の討議の結論を発表した。

議題2：千本倅生氏(東京)

議題3：石島 英氏(沖縄)

議題4：Dr. Kim Won-Nyon(韓国)

議題5：We are going to propose a program for developing an International Communication Network co-sponsoring with IBM, Tatang, Shintang, Lianhwo, Sony, Mitsubishi, Toshiba, Hitachi and so on in the future.

これらの報告内容には、次のような背景があった。つまり日本(東京)としては、今回のタイ国際会議出席に際し、将来の日本での国際会議開催の可能性について、沖縄チャプター代表石島英氏の上京を機に、7月5日の幹事会で検討していたということ。国際会議の候補地案と



セッション風景

して沖縄があり、その中での重要な workshop 案のひとつとして、Human Networking Techno-System Based on a Computerized Data Base の構想があったのである。それはタイ国際会議の最終日の Second EWCA Membership Meeting で提起された日本の recommendation の内容と軸を同じくするものであった。ただし「Hosting…」と書き出して、はっきり意志決定しているような印象を与えたことは、事務上の作業ミスとはいえ、問題であった<sup>(注1)</sup>。

ところで Chapter Leaders Meeting の最終討議については、もっぱら EWC との協力関係堅持の方策に話題が集中したといえる。そして以下の三点が合意された。

1. EWCA の Executive Board Chair は、EWC の Board of Governor であること
2. 同窓会本部スタッフを増員し、同窓生プログラムをふやして各支部間の行き来を容易にするため、EWC は本部予算を増額すること
3. EWC 理事会は本来の目的を推進するため、student grants の数をふやすこと

実は今回はじめて Chapter Leaders Meeting に出席して感じたことは、EWCA の組織的システム力の不在ということであった。たとえば上記3点の合意であれば会議をもつまでもなく、郵便や電話など、他の手段でも意見交換は可能であるはず。その上、国際会議でありながら、その議題が日本を発つ一週間前になってようやく届いている状態で、しかもその議題は同窓会本部の Gordon 氏が個人的に書きまとめた仮案のもの、という有様。各国は自分の国の意見を事前に一本化できるはずもなく、会議はそれ故、個人的見解のやりとりに終始してしまう。これでは全くよくないと考えて、改善すべき旨をタイのバンコクでは Gordon 氏にはっきりと申し入れておいた。(ISO-国際標準化機構、ジュネーブの専門委員会に永らく関与している経験からすると、普通一年前に正式な議題が寄せられる)。

そして Aloha Spirit を基盤とする Mutual

Understanding を唯一の車輪とする一輪車だけで、EWCA が今後とも先へ進むことはむづかしい、との印象も同時に改めて感じた。やはりもうひとつの車輪それも戦略的で実践的アプローチを可能とする新しい車輪との両車相まの経済的自立の道を切り開く必要性を痛感した。そのためにも産・官・学が必要とする学際的・技術的ネットワーク(=データベースの実用化)はおおいに期待できる活路といえるだろう。日本で EWCA の国際会議を将来実施できるとすれば、そうしたネットワークを実践するための workshop にこそ力が注がれてよいと思うのだが…。

(注1) Hosting International Conference in Okinawa by the Japan EWCA submitted by Yukio Ohta, Suguru Ishijima, Fusako Baba and others.

The alumni in Japan would like to express our thanks to the EWC where we learned a great deal about developing mutual understanding among people in different countries. Now, priority should be placed on advanced human networking techno-system based on a computerized data base. This is urgently needed to put into practical use our EWCA extensive alumni network with the cooperation of business, government, and educational sectors. Therefore, we propose to host an EWCA International Conference in Okinawa to examine all major issues of the region with special emphasis on using modern communication systems to expand and improve human networking. We are actively seeking inexpensive conference facilities, hotel and transportation arrangements.



## バンコク国際大会に参加して

### 「ドューのお願い」

飯塚成彦

ひとことと言えれば、7月に行われたバンコクでの EWC 同窓会の国際大会は、よくも、あんなにすごい会議がやれたものだ、というに尽きる。はたして何人集まるか、と危ぶんでいた人には、まさにショッキングなほど続々と、未登録の参加者までがアジアホテルに集まり、総計28ヶ国から517名が参加したのである。貧乏暇無しの私はギリギリまで参加の予定が立たず、とび込みにも等しかったのであるが、見事に準備、運営されている現地に着いて以来5日間、驚嘆の連続であった。

本格的準備開始は1年半前。それ以来数百人の委員、係員が連日働き、開会式には、タイ王室で現在最も人気が高いマハ・チャクリ・シリントン王女が御臨席になり、立派な英語で格調の高い開会のスピーチをされた。それから、盛大な別れの宴に至る4日間は内容の充実した講演、シンポジウム、懇親会等、実に見事なカンファレンスであり、旧交を暖めるリユニオンであり、新しい友人とのナイス・ミーティングの連続であった。とはいえここで、自分ばかり感激していても、皆様には面白くないでしょうから、ご一緒にお考えいただきたい事についてだけ書かせていただこう。

「なぜ、このようなカンファレンスが必要なのか」私は、1977年にホノルルで第一回の同窓会大会が開かれた時、リユニオンのお祭りの興奮の中で、国際同窓会結成の「みこし」に乗せられた「若衆」(当時?)の一人として、バンコクでもこの問題が頭から離れなかった。ホノルル、ソウル、バリ、バンコクと、各地での大会に参

加し、その都度、次は東京で、との声を聞きつつ今日に至っているが、問題は、「やれるかどうか」とか「やりたいかどうか」以前のもの、と考えてきた。つまり、EWC の同窓会リユニオン大会を日本で行うとして、その第一の目的は何か、ということである。

開発途上国とは自ら異なる政治、経済、社会状況にある我が国で、EWC の「同じ釜の飯を食べた」我々が、日本で開催する国際大会の主たる目的は一体何であろうか。この会報は論文集ではないので、あえて端折り、私の気持だけを記させていただく。

「EWC は私たちの多くの心に、他では得られぬ灯をともしてくれた。そして、少なからぬ同窓生の人生航路は、その灯によって大きく変えられた。それが、私たちの現在、ひいては日本全体の現在を築くのに役立つことは否定できない。その灯を、自分たちだけのものにして置いていいのだろうか。その灯を、更に祖国の人たちのために輝かせ、世界をより平和で豊かな所にするために、もっと役立つことはできないだろうか……。EWC の灯。お互いの心にともされているこの暖かい ALOHA の焔を、孤独でかすかな火として消えさせてしまっているのだろうか。せつかくの「ともしび」を、自分の中にだけしまっているのだろうか。折りにふれて寄り合い、暖め合い、油を補給し合って、更に大きな「かがり火」として燃え上らせ、アジア・太平洋地域の人々の顔をより明るくするために、大々的に、日本のどこかで集まる必要

はないのだろうか……。」

今年1月に、ロスアンゼルスで、地域大会を開き大成功をおさめた南カリフォルニア EWCA のインゲ・ケンダル夫人は、バンコクからの帰国途中東京と小山（拙宅）に寄られ、数日にわたって、折りにふれ、カンファレンスの目的・目標の設定の重要性を力説された。「何のための EWC か。何のための EWCA の大会なのか」こ

### インゲ・ケンダル女史来日

本年1月24日から26日までカリフォルニアのロングビーチで EWCA のリージョナルミーティングが開かれたが、その実行委員会のメンバーである、インゲ・ケンダル女史 (University of La Verne) が8月下旬日本を訪れた。ケンダル女史は EWC の元奨学生であり、60年代の会員には大変なつかしい旧友でもある。そこで、幹事会を中心に一部有志も加えて懇親会を8月26日学士会館で開催し、ケンダル女史からは南カリフォルニア・リージョナルミーティングの舞台裏に関するお話を聞くことができた。

とりわけ印象的であったのは、南カリフォルニアでの大会が多く的一般市民参加のもとに行われたとの報告である。大会には、約300名の参加者があったが、そのうち EWCA の会員は約25名(8%)にすぎず、残りはすべて年齢、職業などさまざまな一般市民であった。

このように多数の市民参加が実現したのは、「カリフォルニアにおけるアジア・太平洋文化」というテーマが多数の移民人口をかかえるカリフォルニア社会にとって切実な問題であるためであり、一般市民に加えて公務員、警察官なども研修目的で多数参加したとのことである。

ケンダル女史は今後、リージョナルミーティングを計画する EWCA 各支部への助言として、できるだけ多くの関係機関と協力すること(予

のことを、久しぶりに、痛切に考えさせられた、バンコク大会であった。私はこれを、一時の興奮に終らせたくない。同友会諸賢の「同憂、同勇、同雄、同誘、そして同遊 etc.」を切に願う次第である。(元副会長、現企画委員)  
(’65~’67 ISI.英語教育学専攻。現在、白鷗大学経営学部教授)(2月発行の名簿には「助」教授となっておりますが、ご訂正願います)

算、会場などの利用も含めて)、その地域で重要なのはどのようなテーマか検討すること、関心を持つ人びとに広く参加をよびかけること、を指摘された。

### ハワイ大学同窓会事務局長来日

ハワイ大学では近年同窓会組織の強化がはかられているが、今回海外の同窓生との意見交換の目的で、7月下旬事務局からモナ・チョックさんが中国、日本を訪れた。日本では同窓生の親睦組織であるレインボークラブと、多数の会員がハワイ大学に関係している EWCA との間で意見が交わされた。

ハワイ大学の同窓会はハワイ大学にかつて在籍したすべての人に会員資格があり(卒業生である必要はない)年会費30ドルを払うことにより会員になれる。米国内ではアメリカ全土に多くの会員がいるが、今後は海外の会員を増やしたいとのことである。なお、1993年には海外における初めての同窓会大会を香港で実施する計画がある。

なお、同窓会への入会を希望する方は、以下に問い合わせいただきたい。

University of Hawaii  
Alumni Affairs Office  
1627 Bachman Place BA2  
Honolulu, HI 96822, USA

### EWC 同窓会担当 ゴードン・リング氏来日

EWCA の Alumni Officer ゴードン・リング氏が9月中旬来日した。リング氏の訪問はパオにできた新しい EWCA 支部設立総会への出席の帰路、日本へ立ち寄ったもので、沖縄、大阪、東京の3カ所でそれぞれ会員との懇親の場が設けられた。沖縄では近い将来リージョナルミーティングの開催をめざして会員との意見が交換された。また、EWCA の会員でもある太田昌秀知事(’75EWCLI)をはじめ沖縄県、那覇市の関係各位に対して表敬訪問した。

大阪、東京でもそれぞれ幹事を中心とするメンバーとの懇親会が行われた。席上、沖縄でのリージョナルミーティング開催に関するさまざまな問題、各支部からの協力のあり方などが議論された。また、将来の日本 EWCA、特に、組織のあり方についても意見が交わされた。

(また、リング氏は今後のイーストウェストセンターのチュードントプログラムのあり方について、是非 Alumni の意見を求めたいという意向でしたので、下記アンケートにご記入の上、本年中に事務局までお送り頂ければ幸いです。詳細なご意見は裏面に、又は別紙をお使い下さっても結構です。)

キリトリ線

1. EWC Student Program は継続するべきだと思いますか?

Yes

No

2. No と答えられた方はその理由をお書き下さい。

3. 続けるとすれば、どのような Program が良いと思いますか?

学部(4年制)学生対象のプログラム

2年間の修士取得プログラム

博士課程プログラム

研究者対象プログラム

その他(4.にご意見をお書き下さい。)

**沖縄チャプタダより  
—タイ国際会議参加関連—**

去る7月のタイ・カンファレンスに沖縄チャプタから、私共照屋文雄、高山朝光、西平章子等の9名が参加しました。台湾—香港経由でタイ入りし、ただちにチェンマイ旅行をすませ、カンファレンスに参加し、終了翌日に台湾経由で沖縄へもどりました。

カンファレンス会場では諸外国からの旧友、センタ関係者と再会したり、いろいろな階層、分野の方々の講演を聴いたり、あたらしい友をつくったり、カンファレンスの合間をみて、バ

ンコクの街や人や自然をみたり、まさに感激の体験をさせてもらいました。

こういう、知的教養と友情を基盤としたカンファレンスはユニークなもので、純粋にアカデミックな会合への参加と違った意味の喜びが感ぜられました。そういう、喜びへの貢献策として、いずれかような雰囲気のカンファレンスを沖縄でも、という声がありました。それをうけてゴードン・リングさんが先月12日に沖縄にみえました。リージョナルカンファレンスをもつ話題がでまして、その可能性について勉強しているところでもあります。

(文責 沖縄チャプタ会長 石島英)

キリトリ線

4. その他のプログラムや対象とする国などについてのご意見

**平成3年度総会開催のお知らせ**

下記により平成3年度日本イーストウエストセンター同友会総会を開催いたしますので、会員各位におかれましては是非ご参加下さいますようお願い申し上げます。

記

日 時 平成3年12月7日(土) 18:30~20:30  
場 所 神田・学士会館 (TEL 03-3292-5931)  
地下鉄都営三田線「神保町」A9出口  
会 費 6,000円  
議 題 1. 新会長の選任について  
2. その他

特別講演 日本イーストウエストセンター同友会顧問  
東日本旅客鉄道(株) 代表取締役会長  
山下 勇 氏

演 題 「JR 東日本の現状と将来展望 (国際環境の中で)」  
その後、懇親会を予定しております。

同封の返信葉書にて御出欠の有無、特に御欠席の方は委任状に署名捺印の上、11月28日までに御返送下さるようお願い申し上げます。

**渡辺晴子さん  
1991年度 MMH 賞を受賞**

同窓生を含む EWC 関係者の中で、すぐれた業績の女性ジャーナリストに与えられる1991年 MMH 賞を、日本の渡辺晴子さん (President of HKW Video Workshop and the Tokyo Bureau Chief of the Press Foundation of Asia) が受賞した。MMH 基金は海外通信員であった Mary Morgan Hewett を記念して1982年に創設されたもので、女性ジャーナリストのすぐれた功績に対する顕彰として、Advancement Award と Achievement Award の二つからなるもの。いわゆるジャーナリズムの立場から EWC のゴールとの一致をめざした顕彰活動といえる。

Friends of the East-West Center から寄せられた推薦依頼 (ニューズレター第6号参照)



に、Japan Chapter として応えた結果であって、受賞者の渡辺晴子さんには、コア材の大杯と賞金 U.S. \$1,000 が送られた。写真は去る8月26日(月)東京・神田の学士会館での昼食会にて(南カルフォルニア支部の Inge Kendall さんと大杯を手にする渡辺晴子さんを囲んで)

(文責 太田幸夫)

## 関西支部の役員交替

関西支部では、7月14日(日)梅田・阪急グランドビル27階「グランド白楽天」にて定期総会を開催し、役員の変替を承認した。新役員はつぎの通り。

|      |                   |          |
|------|-------------------|----------|
| 支部長  | 寛 壽雄              | (神戸大学)   |
| 副支部長 | 末延岑生              | (神戸商科大学) |
| 渉外   | 中山行弘              | (摂南大学)   |
| 会計   | 中山恵津子             | (関西外大)   |
| 企画   | Thomas Pendergast | (国際仏教大学) |
| 事務局  | 谷井信一              | (関西学院大)  |

## ハレマノア便り

EWC 日本人会では、さる8月14日、1991年度新入生を迎えて恒例の日本人会を開催した。今年度の新入生(括弧内は所属、ならびに専攻)は次の通りである。

高橋里美 (ICC, Second Language Acquisition)  
道券康充 (EAPI, Political Science)  
田島 誠 (EAPI, Agronomy & Soil Science)  
三国恵子 (PI, Sociology)

また、会長が志村明彦氏 (Second Language Acquisition, Ph. D) から橋本えりさん (Asian Studies, M. A.)へ交代した。なお、今年度の日本人会会員は学生19名、その他6名の合計25名となっている。

## 会員の著書

「スコット・ジョプリン ラグタイム・ピアノ名曲集」長瀬隆子、ジョン・ヤング著。リットーミュージック、1980年。1,800円。

毎日の生活の中で「エンターテイナー」などは聞かれています。ラグタイム音楽ならびにスコット・ジョプリンについては知られていません。この名曲集ではラグタイム音楽ならびにジョプリンの名曲22曲が解説され、ピアノの初

心者にも楽しめる曲が多く、プラスチックレコードもついています。同社から出版されているピアノフォルテという雑誌の1、2、3号には、「エンターテイナー」の弾き方の解説も載っています。ラグタイム音楽を弾いてお楽しみ下さい。(長瀬隆子さんは1961年度 Grantee、米国在住)

---

## 編集後記

---

今年は日本列島、台風と秋雨前線に悩まされたまま天高き秋を十分に楽しむ間もなく冬を迎えてしまった感があります。日常生活も歳を重ねるに従って忙しくなっていくように思われるのは私だけでしょうか。

本年7月にはタイのバンコックにおいて EWCA の International Conference が開催され、日本からも太田会長はじめ数十名の参加をみましたが、EWCA や諸国からはそろそろ日本でも国際会議の開催をという要望が高まってきているようです。日本 EWC 同友会の幹事会も多忙人間の集まりで、なかなか国際会議開催の合意に至りません。会員の皆様はどのようにお考えでしょうか、ご意見をお寄せ下されれば幸いです。同友会の総会も近づいています。御返信をお待ちしております。(MN)

---

## ニューズレター第7号

---

編集発行 日本イーストウエストセンター同友会  
発行責任者 馬場房子 太田幸夫  
〒180 東京都武蔵野市境5-24-10  
亜細亜大学馬場研究室内  
電話 0422-54-3111

タナカ印刷館